

業績ハイライト

Kirayaka Bank

主要な経営指標

■連結

(単位：百万円)

	平成20年3月期	平成21年3月期
連結経常収益	30,689	30,115
連結経常利益	△1,956	△4,155
連結当期純利益	△3,514	△4,726
連結純資産額	27,773	31,428
連結総資産額	1,156,285	1,141,280
1株当たり純資産額	267.01円	185.49円
1株当たり当期純利益	△55.14円	△38.32円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—
連結自己資本比率（国内基準）	6.89%	8.73%

■単体

(単位：百万円)

	平成20年3月期	平成21年3月期
経常収益	31,956	27,683
経常利益	△1,966	△3,976
当期純利益	△3,637	△4,600

※平成20年3月期については、山形しあわせ銀行の閉鎖決算（平成19年4月1日～平成19年5月6日）を含んでおります。

- (注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
2. 「1株当たり純資産額」、「1株当たり純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり純利益」の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
3. 連結自己資本比率（国内基準）は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

営業の概況

■収益の状況(連結)

当行の連結経常収益は、資金運用収益や役務取引等収益は増加いたしました。前年において睡眠預金に係る会計処理の変更に伴い一時的に増加した影響がなくなったこと等から前年同期比5億74百万円減少の301億15百万円となりました。一方、連結経常費用は、経常収益と同様に睡眠預金の影響がなくなったことによる費用の減少や、合併効果による営業経費の減少等の要因がありましたが、東京株式市場の大幅な下落による保有株式の減損費

用の増加等から、前年同期比16億24百万円増加の342億70百万円となりました。その結果、連結経常損失は41億55百万円、連結当期純損失は47億26百万円となりました。

■コア業務純益(単体)

銀行の本業部分の収益を表すコア業務純益につきましては、合併による効果である経営の効率化に努めました結果、経費が大幅に減少し、前年比12億23百万円増加し53億25百万円となりました。

■預金・貸出金(単体)

預金残高につきましては、「山形応援シリーズ」を中心とした新商品の販売は好調でしたが、預かり資産への振り替え等もあり、前年比157億円減少の1兆719億円となりました。

貸出金残高につきましては、個人向け貸出は減少したものの、「中小企業資金繰りの円滑化」に積極的に取り組んだことから、法人向け貸出等が増加し、前年比46億円増加の8,569億円となりました。

■不良債権(単体)

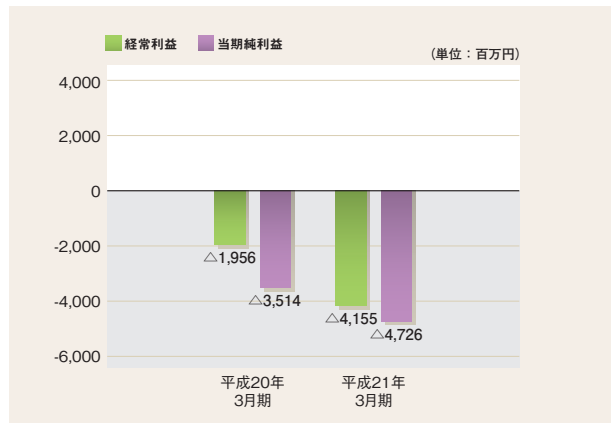
不良債権につきましては、お取引先の経営支援体制を強化し、積極的な取り組みを行ったことから、金融再生法ベースの不良債権残高は、平成20年3月末比155億円減少し584億円となりました。また、同不良債権比率につきましても、平成20年3月末比1.81%低下し6.66%となりました。

■自己資本比率(連結)

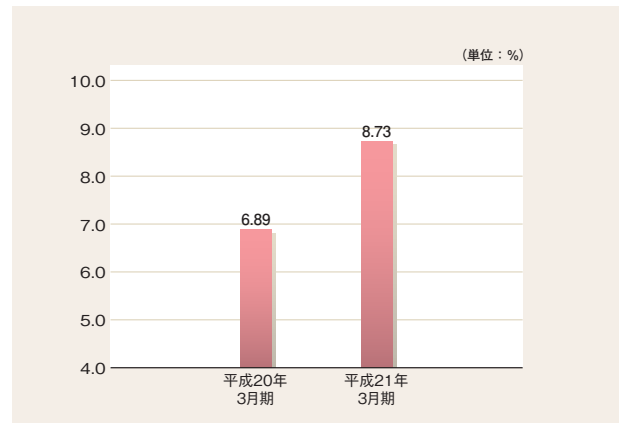
連結自己資本比率は、前期末比1.84ポイント上昇し、8.73%となりました。

※本数値は、自己資本比率規制の弾力化を適用しております。

経常利益・当期純利益の状況(連結)



自己資本比率の状況(連結)



【用語解説】

■ コア業務純益

「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支益から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益の事を指します。

■ 経常利益

「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。

■ 当期純利益

「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

■ 自己資本比率

総資本に占める自己資本の割合を指し、銀行経営の健全性や信頼度を示す指標のひとつです。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

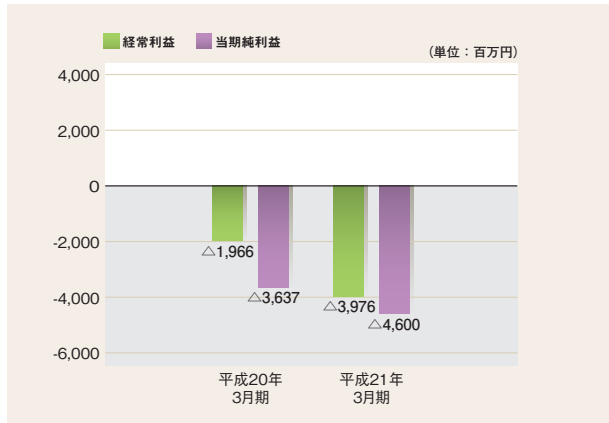
※連結自己資本比率（国内基準）は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

業績ハイライト

Kirayaka Bank

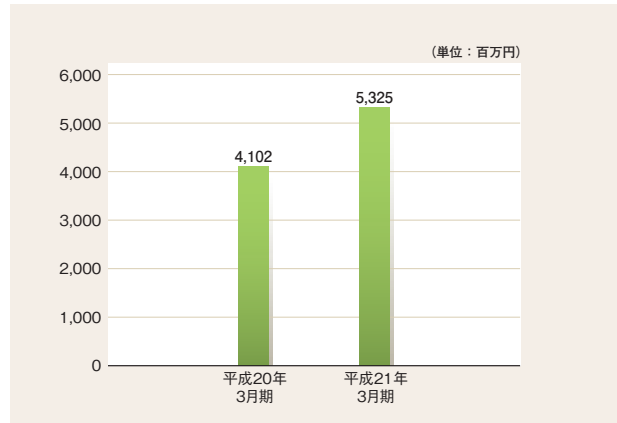
平成20年3月期の計数には、山形しあわせ銀行の閉鎖決算(平成19年4月1日～平成19年5月6日)を含んでおります。

経常利益・当期純利益の状況(単体)



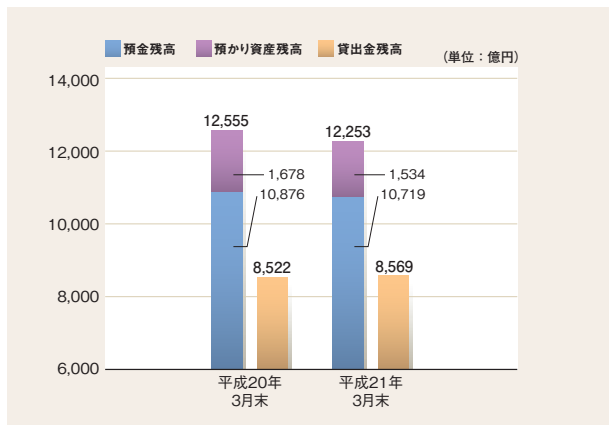
店舗統廃合等の合併効果および人員の再配置による大幅な経費削減が図られたものの、昨年来の世界的な金融危機における株式市場の混乱の影響により、一時的な費用として、保有有価証券の償却を57億47百万円計上したことから、経常利益は39億76百万円の損失、当期利益は46億円の損失となりました。

コア業務純益の状況(単体)



利回りの低下等による貸出金利息の減少や投資信託販売の低迷による役務取引等利益の減少はありましたが、合併効果である経営の効率化に努めました結果、経費が前年比21億48百万円と大幅に減少し、前年比12億23百万円増加し53億25百万円となりました。

預金・預かり資産・貸出金の状況^{※1}(単体)

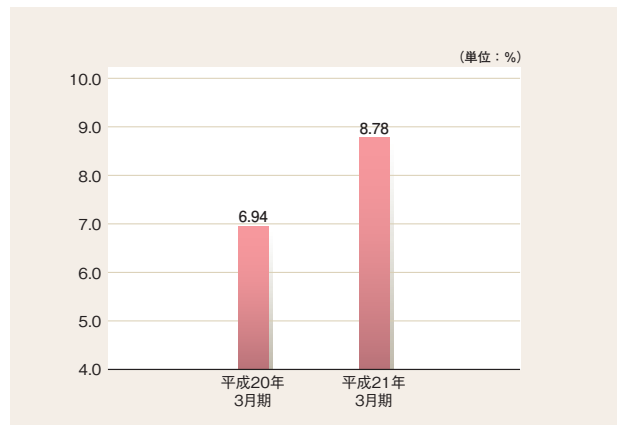


預金残高につきましては、「山形応援シリーズ」を中心とした新商品の販売は好調でしたが、預かり資産への振り替え等もあり、前年比157億円減少の1兆719億円となりました。

貸出金残高につきましては、個人向け貸出は減少したものの、「中小企業資金繰りの円滑化」に積極的に取り組んだことから、法人向け貸出等が増加し、前年比46億円増加の8,569億円となりました。

※1. 譲渡性預金は含んでおりません

自己資本比率の状況(単体)



平成21年3月末における単体自己資本比率は、前期末比1.84ポイント上昇し、8.78%となりました。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※預金には譲渡性預金を含みません。

※単体自己資本比率(国内基準)は、銀行法第14条の2の規定に基づく金融庁告示に定められた算式に基づき算出しております。

※決算の詳細につきましては、きらやか銀行ホームページ(<http://www.kirayaka.co.jp/>)よりご覧いただけます。